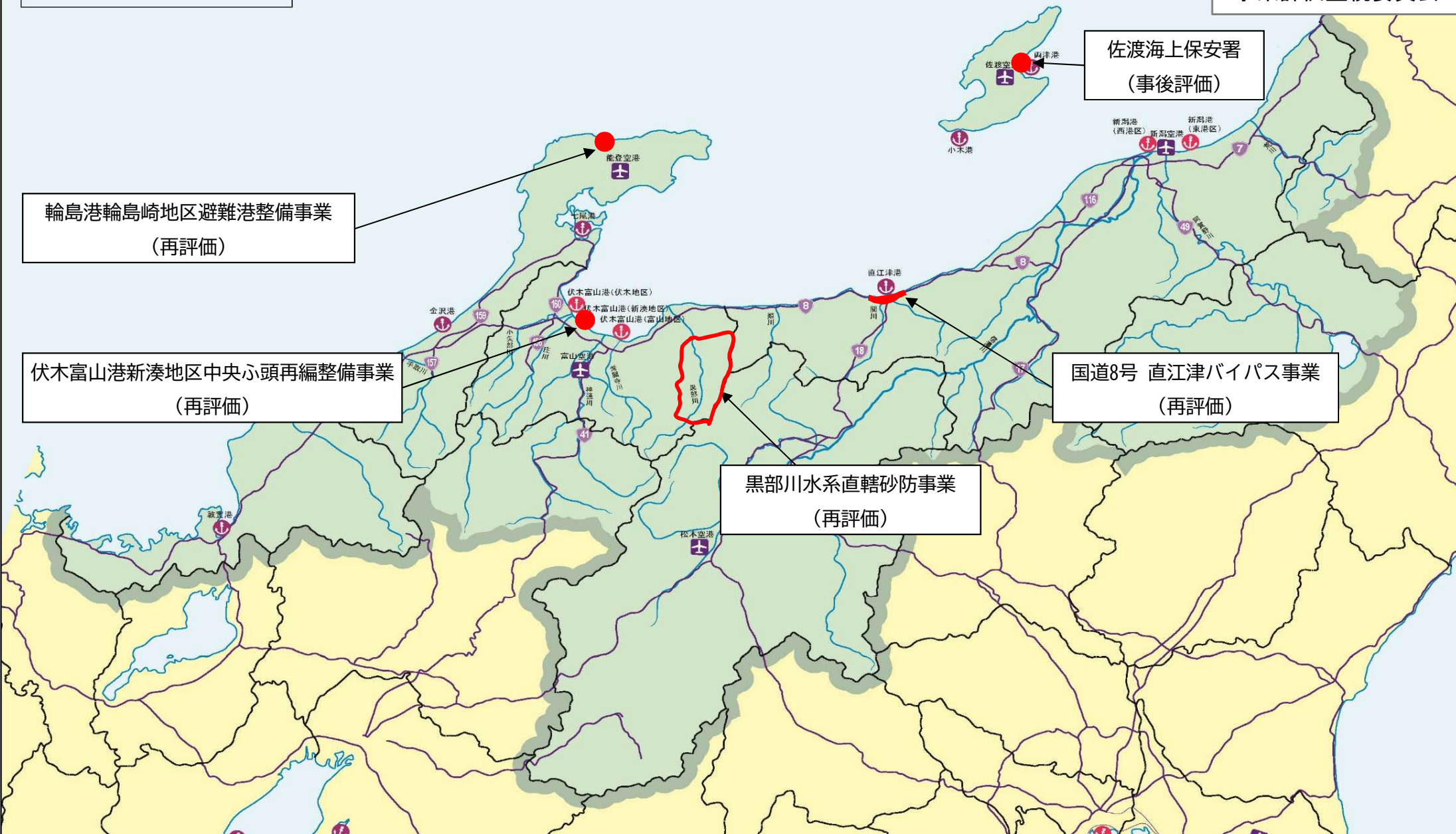


令和3年度 第1回北陸地方整備局 事業評価監視委員会

対象事業位置図

【資料 - 1①】

令和3年度第1回
北陸地方整備局
事業評価監視委員会



【再評価】

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	審議区分	該当要件	前回再評価年度	主な事業の進捗状況	今後の進捗 の見込み	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業年数 上段:前回評価時 下段:現時点	事業の投資効率性 上段:前回評価時 下段:現時点		事業の効果等	都道府県・政令 市等の意見	対応方針 (原案)	備考
1)港湾事業の再評価																	
輪島港輪島崎地区 避難港整備事業 (金沢港湾・空港整備事務所)	石川県輪島市	昭和53年度 (1978年度) ～ 令和11年度 (2029年度)	重点審議	社会経済情勢の 急激な変化等	H30年度	令和3年度末までの事業進捗率88%	第6防波堤の断面見直しによる整備を引き続き進める。	波高の増大により、堤体の安定性を確保するため見直し後の断面での整備が必要となった。	防波堤の配置及び構造は、所要の機能を満たす経済的なものとなっている。施工計画の見直し等の検討により、一層の建設コスト削減を図る。	約382	44年	【事業全体】 総便益B:5,194.0億円 総費用C:1,157.5億円 B／C＝4.5	【残事業】 総便益B:1,179.2億円 総費用C:28.5億円 B／C＝41.4	防波堤の整備により避泊水域(避泊対象隻数:7隻)を確保することで、周辺海域を航行する船舶の避難が可能となり、荒天時の海難による船舶の損傷等が減少する。 マリンタウン岸壁への安全な係留が可能となり、クルーズ船の安定な入港を可能とし、交流機会の拡大による地域振興に大きく寄与する。	事業継続	事業継続	
						平成22年度に第4防波堤1,210m完成 平成30年度に第6防波堤450mのうち280m(第1段階)完成 残事業の内容:第6防波堤(第2段階)の整備	令和11年度整備完了予定			約417	約+35 増額 9%	52年	+8年 (+18%)				
2)港湾事業の再評価																	
伏木富山港新湊地区中央 ふ頭再編整備事業 (伏木富山港湾事務所)	富山県射水市	平成31年度 (2019年度) ～ 令和4年度 (2022年)	重点審議	社会経済情勢の 急激な変化等	H30年度	令和3年度末までの事業進捗率53%	大型船舶の入港が可能となる岸壁及び泊地(水深14m)の確保に向けて、引き続き事業を進める。	現状不一致により、岸壁の構造の見直しが生じた。現地調査結果より、浚渫土砂の投入範囲および施工方法の見直しが生じた。	ICT施工による生産性向上、建設発生材を有効利用するなどコスト削減に努める。	約50	4年	【事業全体】 総便益B:72億円 総費用C:43億円 B／C＝1.7	【残事業】 総便益B:72億円 総費用C:43億円 B／C＝1.7	船舶の大型化や取扱貨物の増加に対応した荷役施設の確保が課題であり、この課題を解消するために中央ふ頭再編整備事業が必要である。 本事業は、地域産業の国際競争力強化等に寄与する。	事業継続	事業継続	
						残事業の整備内容:岸壁(水深14m)、泊地(水深14m)の整備	令和4年度整備完了予定			約62	約+12 増額 24%	〃	〃				
3)砂防事業の再評価																	
黒部川水系直轄砂防事業 (黒部河川事務所)	富山県黒部市	平成22年度 (2010年度) ～ 令和17年度 (2035年度)	一括審議	再評価後 一定期間経過	H28年度	・黒部川水系直轄砂防事業は平成22年度(2010年度)より中期的な計画における事業に着手し、着実に整備を進めている。 ・令和3年度末(予定)の中期的な目標における整備状況は、整備対象土砂量において約57%。	・厳しい自然条件や施工期間等制約がある施工条件の中、今後とも着実な進捗が見込める。 ・砂防事業に対する地域の要望も大きく計画的に事業を推進していくことで、地域の安全性向上が期待できる。	・年間約69万人の観光客が黒部峡谷に訪れている。 ・2024年に予定されている「黒部ルート(樺平～黒部ダム)」が、富山県内及び近隣地域の観光資源として期待されている。 ・水力発電施設が21箇所整備されており、関西都市圏の産業・生活を支えている。	・コンクリート製造プラント設備により工事におけるコスト削減、構造物の高耐久性を考慮した摩擦対策によるライフサイクルコストの低減を図っている。 ・関係機関等との綿密な事前調整により工期短縮を図っている。 ・設計から工事に係る各段階において、コスト削減につながる代替案の可能性を検討し事業を進めている。	約124	26年	【事業全体】 総便益B:114億円 総費用C:93億円 B／C＝1.2	【残事業】 総便益B:100億円 総費用C:66億円 B／C＝1.5	・全体計画(100年超過確率規模)における整備対象土砂に対して、中期的な目標の砂防堰堤等の整備が完了した場合、黒部峡谷鉄道の被害が軽減される。	事業継続	事業継続	※防災面の効果が特に大きい事業
								約135	約+11 増額 9%	〃	〃	【事業全体】 総便益B:182億円 総費用C:147億円 B／C＝1.2	【残事業】 総便益B:127億円 総費用C:34億円 B／C＝3.8				
4)道路事業の再評価																	
国道8号 直江津バイパス (高田河川国道事務所)	自:新潟県上越市大潟区犀潟 至:新潟県上越市虫生岩戸	昭和41年度 事業化 昭和42年度 用地着手 昭和43年度 工事着手	一括審議	再評価後 一定期間経過	H28年度	事業進捗率64% 用地進捗率66%	残る上越市大潟区犀潟～下荒浜間の4車線化については、交通状況を勘案し整備を進める。 完了時期未定	—	—	約360	58年	【事業全体】 総便益B:2,008億円 総費用C:1,015億円 B／C＝2.0	【残事業】 総便益B:209億円 総費用C:130億円 B／C＝1.6	①走行時間の短縮 ②交通事故の減少 ③北陸新幹線・上越妙高駅と主要観光地間を結ぶ観光ルートとしての機能向上 ④第3次医療施設(新潟県立中央病院)へのアクセス向上 ⑤重要港湾直江津港へのアクセス向上	事業継続	事業継続	
						残事業の内容: 道路設計、用地取得、改良工事、舗装工事			〃	63年 (想定)	【事業全体】 総便益B:2,345億円 総費用C:1,392億円 B／C＝1.7	【残事業】 総便益B:139億円 総費用C:124億円 B／C＝1.1					

【事後評価】

事業名 (箇所名)	事業化等年次	完成年次	全体事業費	全体B/C (事後)	同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	対応方針(案)		備考
						今後の事後評価 の必要性	改善措置 の必要性	
1)営繕事業の事後評価								
佐渡海上保安署 (営繕部)	平成27年度	平成30年度	約5.8億円	-	必要なし	必要なし	必要なし	